

平成28年度 学校評価書(自己評価書):学校関係者評価様式(期間:4月~2月末)

学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた生徒の育成		土佐市立 土佐南中 学校	公印	NO. 1	
研究主題	一人ひとりを大切にしたいわかる授業の創造 ~自分で考え、適切に行動する生徒の育成~					
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	改善策(A)	
1 の ば そ う 学 力	学ぶ意欲の向上	児童生徒アンケート「あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上=A 3.5以上=B 3以上=C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でA(4.2P)を目指す。 ・H27:4.0→H28:3.8(-0.2)	○昨年度より0.2P下降した。2・3年生の肯定群が昨年より減っている。強い肯定群は増えており、2極化の傾向がある。1年生は肯定群87.6%と高い値である。	○「授業のスタンダード」の徹底など、生徒がわかる授業への更なる改善を図る。 ○様々な課題を抱える生徒に寄り添い、話を聞き、一歩でも前に踏み出そうという気持ちを引き出していく。	
	わかる授業の創造	児童生徒アンケート「あなたは授業がよくわかりますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上=A 3.5以上=B 3以上=C 2.5以上=D 2.5未満=E 教員アンケート「あなたは、わかりやすい授業につとめていると思いますか」の、5段階平均で判断。 4以上=A 3.5以上=B 3以上=C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でA(4.2P)を目指す。 ・H27:3.8→H28:3.6(-0.2) 27年度、教員アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:3.7→H28:3.9(+0.2)	○昨年と同じB評価ではあるが、0.2P下降している。3年生は昨年と同じ傾向であるのに対し、2年生の値が下がっている。2・3年生とも強い肯定群は増えており、2極化が見られる。1年生は否定群が0である。 ○昨年度より0.2P上昇し、A評価まであと一歩である。学校ビジョンを共有し、同じ方向を向いて取り組んできた結果であると思われる。しかし、生徒や保護者の結果との間にはギャップがある。	○「授業のスタンダード」の徹底など、生徒がわかる授業への改善を図る。 ○机間指導等により確認作業をていねいにし、進捗状況や理解度を把握し、個に応じた指導を行っていく。 ○取り組みが教師の自己満足にならないように、生徒の声に耳を傾け、さらに授業改善に取り組む。 ○机間指導等により確認作業をていねいにし、進捗状況や理解度を把握し、個に応じた指導を行っていく。	
	家庭学習の定着	全教員の公開授業の実施率で判断。 ・教員の90%以上が公開=A ・教員の80%以上が公開=B ・教員の70%以上が公開=C ・教員の60%以上が公開=D ・教員の60%未満=E	27年度、教員アンケートでは5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でAを目指す。 ・H27:11人実施(100%)→H28:10人実施(100%)	○全校公開、自主公開の授業研究を計画し、全教員が実施できた。 ○自身の授業があるために、自主公開授業を参観する機会がなかなかない。	○「教員全員が「学校ビジョン」「授業のスタンダード」をめざし、同じ方向に向かっての研究協議、振り返りをしているようにする。全員が参観できる機会を増やす。	
	読書活動の推進	家庭学習時間を小低30分以上、小中45分以上、小高60分以上、中学生90分以上学習している児童生徒の割合で判断。 80%以上=A 70%以上=B 65%以上=C 50%以上=D 50%未満=E	27年度は5段階評価でCであった。 28年度は5段階評価でBを目指す。 ・H27:65.6%→H28:61.6%(-4.0%)	○90%以上の割合は学年が上がるにつれて大きくなる傾向は変わっていないが、2年生の昨年から伸びが鈍い(1年次より増えてはいる)。 ○総学習時間の平均は117分と昨年より19分延びている。	○各教科で授業とリンクした家庭学習課題を与える。 ○個に応じた課題を与える。 ○学習委員会等で家庭学習時間コンクール等の刺激を入れる。	
	読書活動の推進	学校図書館の児童生徒平均貸出数で判断(小学校) ・40冊以上=A 20冊以上=B ・10冊以上=C 5冊以上=D ・5冊未満=E (中学校) ・20冊以上=A 15冊以上=B ・10冊以上=C 5冊以上=D ・5冊未満=E	27年度は5段階評価でBであった。 28年度も5段階評価でBを維持する。 ・H27:平均貸出16.9冊(12月現在)→H28:平均貸出16.8冊(-0.1冊)12月現在	○朝読書において、図書委員がおすすめの本を紹介することで、生徒どうしをつなぎ読書への興味・関心を高める活動ができた。 ○1年生の貸出平均数数は21冊となっており、維持していきたい。 ○図書室をほとんど利用せず、本を借りない生徒がいる。	○朝読書における図書委員の活動を継続していくことで、様々なジャンルの本に触れさせ、図書室の利用機会を増やしていく。	
	読書活動の推進	●全校の取り組み①「まとも」をイメージできる「めあて」の提示②自分の言葉で表現する場面の設定③考えて行動して成功したという体験を積ませる仕掛け●「授業力チェックシート」を活用した授業改善の実施(毎学期)●指導方法の工夫改善(1年生数学、2・3年生英語と全学年総合のTT、2年生数学の分割による少人数指導、3年生数学の習熟度別指導)●小中連携推進合同研修会の実施●単元テスト等による授業内容の習熟度を確認				○学力の定着に向けて左記の各取組を行ってきたが今後はそれぞれの取組の効果的な運用と充実が必要である。
	標準学力調査の状況	NRTの結果(小5・中2)による、学力の定着度で判断。偏差値平均から ・+4P以上=A ・+2P以上=B ・0P以上=C ・-2P以上=D ・-2未満=E	27年度は、標準学力調査について5段階評価で国語はB、数学はEであった。 28年度は、5段階評価で国語はA、数学はCを目指す。 ・H27:国語52.7、数学46.7→H28:国語50.1、数学50.6	国語(偏差値平均50) 観点別でみると、話す・聞く書く能力は全国比を超えているものの、読む能力と言語についての知識・理解・技能が低い結果となった。昨年度より-1.6となっている。 数学(偏差値平均50) どの領域、観点においても全国比100を超えた。特に、資料の整理が全国比112とよできていた。	○「読む」は、説明的文章と文学的文章の読み取りの徹底をする。「言語」については、漢字や文法の復習を授業の場面で設定をし、必ず小テストで定着を確認する。 ○「授業のスタンダード」の徹底による日々の授業改善、宿題の工夫、定期テストの改善により、平素から着実に力を付ける。	
	高知県学力定着状況調査の状況	H26高知県学力定着状況調査(小5・中2)の結果から判断。県平均から、小は+4P以上=A、+2P以上=B、0P以上=C、-2P以上=D、-2未満=E、中は、+5P以上=A、+3P以上=B、+1P以上=C、-1P以上=D、-1P未満=E	27年度は、高知県学力定着状況調査について5段階評価で国語はA、数学はAであった。 28年度も、5段階評価でAを維持する。 ・H27:国語75.0、数学54.8→H28:国語56.2、数学60.6	国語(中2 56.2 県55.2) 県平均は1ポイントしか上回っていない。書くことに課題が残る。複数の資料から読み取ることや、自分の考えを書くことが十分ではない。また、書く条件が複数あるとすべての条件を取り入れて書くことができない。 数学(中2 60.6 県49.1) 県平均より11.5ポイント上回ることが出来た。普段の授業から、問題や授業のまともにおいて、自分の考えを表現する場面を設定することや、活用を問う問題を取り入れていたことが要因として考えられる。	国語 ○「書く」を意識して場面設定をする。「書くこと」が苦手な生徒への支援も必要である。 数学 ○今後自分の考えを表現する場面を設定し、授業のまともを考えためあての提示を行う。 ○解き方などを説明をする問題において、無解答率の高いものがあったので、日々の授業で説明の手立てを考え、ヒントカードなどを用いて、説明の方法や、やり方を定着させていく。	
	全国学力・学習状況調査の状況	全国学力・学習状況調査の結果による、学力の定着度で判断。(ABの合計平均値全国平均と比較して差が) ・+2P以上=A ・0P以上=B ・-2P以上=C ・-4P以上=D ・4P未満=E	27年度は、全国学力・学習状況調査について5段階評価で国語D、数学Eであった。 28年度は5段階評価で国語C、数学Cを目指す。 ・H27:国語65.1、数学46.7→H28:国語74.1(+3.0)、数学54.0(+0.8)	(国語:小65.3 中:71.0) B問題が特に全国平均より5.6高い。日頃より、意欲的に学習に取り組む、過去の問題においても真面目に取り組むことができた。課題としては、記述式問題で無答率が高くなっている。 (算数:62.4 数学:53.1) A問題では全国平均を2.1ポイント上回ることができたが、B問題を0.4ポイント下回った。目標であるB評価には達したが、課題として、活用を問う問題を日々の授業で取り組んでいく必要がある。	○生徒は意欲的に学習に取り組む、過去の問題においてもしっかり取り組むことができています。今後は、生徒の活用する力を高めるために、日々の授業の中で、活用を問う問題や記述式問題等に取り組んでいく。	
	放課後学習タイム、水曜日の加カタイムの継続 ●「学習シラバス」を活用した家庭学習の取り組み ●課題形式の家庭学習の実施→英語単語ノート、予習・復習プリント年間を通した継続 ●土佐南中学校区学力向上小中連携推進事業の継続→4部会に組織された小中学校教職員の各グループにより年間3回以上の研修・交流を実施する。●全国学力・学習状況調査問題、高知県学力定着状況調査問題、高知県作成思考力問題集、単元テストチャレンジ問題等を平素の年間授業計画や定期考査に取り入れる。					○小中学校での実践交流(授業交流及び取り組み交流) ○加カタイムの効果的な実践を推進 ○授業のめあての見直し

学校関係者評価を踏まえての改善点:  
 ◇生徒の実態に応じた加カタイム(水曜日6時間目:30コマ目)の継続・放課後学習タイム・家庭学習課題の設定(調査において低位だった問題を重点的に復習)  
 ◇全国学テ・県版学テ・標準学力テストの分析結果や授業評価等を反映させた教科指導に取り組む。  
 ◇学校ビジョンに基づいた校内研修等、個々の教員の授業力向上に向けた研修や授業づくり部における取組の充実。  
 ◇どの生徒にとってもわかりやすい授業の工夫や環境の工夫に取り組む。